

「備北商工会地区」景気動向分析レポート 令和6年1月～3月期

《調査目的》

「経営発達支援計画」に基づき、管内の景気動向等についてより詳細な実態を把握するため、全国商工会連合会が行う「小規模事業景気動向調査」を継続して実施。その結果と経営指導員等の行う巡回及び窓口相談によるヒアリングを分析し、まとめたものを管内事業者に対して提供するものです。

《調査概要》

対象期間：令和6年1月～3月

対象事業所：備北商工会地区内の事業所

回答企業：15企業

製造業2 建設業2 小売業5 サービス業6

【産業全体】

業況についてはDI値が-33.3ポイントとなり悪化に転じている。前期と同様にエネルギーコストや物価高騰が続いていることから、消費者の節約志向が高まり、消費動向が鈍化している。そのため採算は悪化の状況が続いている。前期と同様に人手不足も全業種で問題となっているが、改善される見通しが立たない。

【製造業】

売上額について増加と回答した事業所もあるが、資金繰りについては悪化と回答している。季節変動の影響もあり、売上額が一部上昇したが、仕入れ価格高騰の影響が続き資金繰りが苦しい状況になっている。

【建設業】

資金繰りが悪化したと回答している事業所もあることから、前期と同様に苦しい状況が続いている。人件費や仕入れ価格の上昇が続いていることや、物価高騰による消費者マインドの低下のため住宅需要が減少していることから、資金繰りが改善される見通しが立たない。

【小売業】

売上額や客単価、利用客数について約6割の事業所が悪化と回答している。今期は仕入れ価格の高騰分を価格転嫁しきれなかったことや個人消費の低迷の影響により、売上額や客単価、利用客数が減少していると考えられる。採算が合わず業況や資金繰りについては前期と同様に苦しい状況が続いている。

【サービス業】

売上額、客単価、利用客数については半数の事業所が増加と回答している。客単価については、仕入れ価格の上昇分を価格転嫁したことにより増加傾向ではあるが、利用客数については半数の事業所が減少と回答しており、前期と同様に物価の高騰が止まらないことに起因する個人消費の低迷の影響を受けている。

産業全体の業況

業況DI値(前期比) ※商工会地域のみ
(前期) (今期)

	R5.10~12	R6.1~3	前期との比較
備北	-20.0	-33.3	↓
広島県	-21.4	-15.8	↗

DIとは Diffusion Index (景気動向指数)の略。
各調査項目について、増加(好転)企業割合から、減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示し、「変化の動向」を把握する。
DIがプラス(+)なら………強気(楽観)、上昇機運
DIがマイナス(-)なら………弱気(悲観)、低下機運

広島県の主要景況項目の推移(前年同期比)

【製造業】	製造業 DI	(前期)	(今期)	
主要項目	R5.10~12	R6.1~3	前期との比較	
売上額	-22.0	-8.0	↗	
原材料仕入単価	66.6	75.5	↗	
採算	-22.0	-22.0	→	
資金繰り	-12.0	-10.0	↗	

【小売業】	小売業 DI	(前期)	(今期)	
主要項目	R5.10~12	R6.1~3	前期との比較	
売上額	-15.9	-38.5	↓	
商品仕入単価	66.7	75.5	↗	
採算	-35.3	-46.4	↓	
資金繰り	-26.1	-31.9	↓	

【建設業】	建設業 DI	(前期)	(今期)	
主要項目	R5.10~12	R6.1~3	前期との比較	
売上額(完成工事額)	-17.0	-24.4	↓	
材料仕入単価	65.9	58.6	↓	
採算	-19.1	-26.8	↓	
資金繰り	-4.8	-12.2	↓	

【サービス業】	サービス業 DI	(前期)	(今期)	
主要項目	R5.10~12	R6.1~3	前期との比較	
売上額	7.2	-4.3	↓	
材料等仕入単価	64.7	64.7	→	
採算	-21.7	-18.6	↗	
資金繰り	-7.5	-17.9	↓	